

## 第18回 大宮グランドセントラルステーション推進会議 まちづくり推進部会 主な意見

開催日時：令和元年11月22日（金）10:00～12:00

開催場所：大宮区役所6階 601・602会議室

出席者

選出区分	役職等（敬称略）
学識経験者	東京大学 工学部都市工学科 教授 窪田 亜矢
地元 まちづくり団体	大宮駅東口駅前南地区まちづくり推進協議会 会長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 会長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 副会長
地元 まちづくり団体	大宮駅前大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合 理事長
地元 まちづくり団体	大宮駅前大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合 副理事長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 専務理事
関係行政機関	さいたま市 都市局 都心整備部長
関係行政機関	さいたま市 大宮区 副区長
デザイン コーディネーター	アーバンデザインセンター大宮 副センター長
オブザーバー	都市再生機構（東日本都市再生本部 事業企画部）事業企画課 主幹

■まちづくりガイドラインの検討状況について

【⇒事務局からの回答】

- ・現在のまちの魅力が何で、それをどのように伸ばしていくのかというまちづくりガイドラインにしないと、「大宮らしさ」を適切に読み取り、継承することにつながらないと思う。
  - ・まちづくりガイドラインは、次の世代がまちづくりの方向性に迷った時に参考になるようなものにするべきだが、現在の内容はそうはなっていないように思う。このままでは、大宮の現状を知らない人がつくったかのような印象を受けてしまう。
  - ・駅前だけでなく、周辺を含めたまちの奥深さといったものを考えると、公共施設再編の中でも特に旧大宮区役所跡地や旧大宮図書館との関係は考えていくべきだと思う。
- ⇒旧大宮区役所跡地については、GCSによる駅前の工事の際に交通広場として暫定利用することが、「大宮駅東口周辺 公共施設再編／公共施設跡地活用 全体方針」に既に記載されている。その後の活用については、「駅前にぎわい拠点」として、GCSと同時に検討を進めていくことになる。
- ・「大宮らしさ」や「東口らしさ」として「良い意味での猥雑さ」がある。一方で、歩きづらい等の声もあるため、この特徴には良い面も悪い面もある。まちづくり推進部会で検討を進めながら、上手く消化して良い方向に持っていければ良い。
  - ・大概、新しいまちになるとそれまでの良さがなくなってしまう。しかし大宮は、既存の小規模な店舗・施設と、新たな大規模な店舗・施設を上手くミックスさせ、両方を持つことで生き残るまちであると考えている。そのため、それらをどのように共存させ、プランニングにつなげていくのかという根本的なところを整理して欲しい。
  - ・GCSの上位計画である「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」の中で、「おもてなし」という言葉があり、その考え方はGCSにも続いていると思う。この「おもてなし」という言葉はとても良いと思うが、駅や駅前で来街者を迎えてそれで終わりではなく、そこからどのようにまちの中に出てきてもらうのが重要であり、旧大宮区役所跡地や氷川参道も含めて考えていく必要がある。
  - ・基本的にはまちを新しくしていくのだろうが、どこかに昔懐かしいものや、そういった店舗が集まる場所をつくることも考えて良いのではないか。
  - ・まちづくりガイドラインの中に「視点場」という言葉が出てくるが、同様の空間をつくって成功している事例があれば教えていただきたい。
- ⇒GCS構想にも記載している「視点場」は、2種類のことを考えており、一つは「鉄道のまち大宮」にちなんだもので、新東西通路から下を走る鉄道を眺めるものである。事例としてはJR大阪駅が挙げられる。
- もう一つは、中央コンコースからシンボル都市軸に出た時に、氷川参道の方まで見渡せるものである。事例としては、JR姫路駅から姫路城へ続く「キャッスルロード」を見通せる広場や歩道、休憩施設のつくり方が挙げられる。

- ・現在のまちづくりガイドラインを見ると、これまでの皆の意見を入れていく一方で、一体どのようにして誰がまとめるのかわからない。それよりも、さいたま市が業務を発注しているコンサルタントから、全国の開発を見てきた上で、大宮のまちの方向性やコンセプトをどのように考えているのかを提案して欲しい。
- ⇒昨年度までのまちづくりガイドライン（素案）を踏まえ、各地区や事業者ヒアリングを行いながら、作業の方針を固めていくという流れで進めてきた。そのような作業の関係の中で、コンサルタントとしての独自の提案をさせていただける場があれば、そのようにしたいと考えている。
- ・「大宮らしさ」という観点が、「まちづくりガイドライン」や「構想実現案」につながっていない。まちづくりガイドラインに掲載されている海外の写真は、大宮とはかけ離れているように見え、どのように大宮駅前の整備につながってくるのかわからない。それが様々な意見が出てきてしまう原因ではないか。
  - ・経済活動の状況が載っているが、さいたま市の人口が2030年以降減少し、税収も減少する中でどのようにまちとしての力を保つのか、という一番重要な問題については載っていない。
  - ・住民の意見を聞いた上で行政案が出てくるべきと考えているが、これまでは行政とコンサルタントの間で案をつくっている状態であり、それに対する意見を突然求められても困る。また、仮に意見を出してもそれが反映されずに進めてきたのがこれまでであり、このような進め方で“議論を積み上げてきた”と言われても困る。そのような行政案に不満が出るのは当然のことと思う。
  - ・渋谷では、昔から互いをよく知る地権者の方々が基本構想の段階から議論してきたものが実を結び、現在進んでいる開発があるので、大宮でもそういった進め方は可能だと思う。
  - ・まちづくりガイドラインについては、「方策案」の内容に関する議論に入っていると認識していたが、その前段階の「都市空間形成の目標」や「整備の指針」についてもまだ議論が必要かもしれない。「方策案」の内容自体が不十分なのか、あるいは「整備の指針」から「方策案」へのつながりが不十分なのかもしれない。
  - ・「まちづくり戦略」の3つの戦略は良いと思うが、その表現方法は考える必要がある。ここから「都市空間形成の目標」につながれば、よりわかりやすくなるのではないか。
  - ・3月の第10回GCS推進会議には、各地区の方々が良しとした案が出てくるのか。
- ⇒（仮称）GCSプラン（案）については、今年度書き込めるところは書き込むが、状況次第では追記・修正することも考えられる。その意味では、来年度以降の検討も残した上でのまとめ方もあると考えている。

・各地区の事情もあるため、一度に街全体のイメージを描くのは簡単ではないと思うが、どこかで街全体のイメージが出てくるべきなのではないか。大宮のまちの方向性やコンセプト等の土台の議論がないまま進んできたということだろう。

・大宮東口は、駅前の一部と、ラクーンや高島屋といった一部の施設に人がいるが、駅から離れると人通りは少ないのが現状である。その現状をまちとしてどのように変えていくのかというのがGCSだと考えている。

・鉄道事業者とまち側の協議の場は行政が調整するのか。

⇒まち側との協議の場については、行政が引き続き調整していきたい。

・第9回GCS推進会議の鉄道事業者からの発言からは、まるで2面3線化しか考えていないかのような印象を受けた。まちづくり推進部会として、まちづくりを軽視するかのような鉄道事業者の発言は容認すべきではないと思う。

・まちづくりガイドラインの中に駐輪場のことが載っていないのではないかと。住民の生活という面を考えた場合、各地区の連携のもとに整備する駐輪場についても載せるべき。

⇒今後、都市機能に関する議論の中で、各地区の開発に合わせた整備の検討も進めていただくことになるのではないかと考えているので、その点についても加筆していきたい。

・まちづくりガイドラインに様々な項目があるが、これらが各地区にどのように割り振られるのかを示してもらえると、地区としても自分たちの計画が立てやすくなる。

⇒現在は全体の方向性を決めていく段階であると考えている。まちづくりガイドラインには「民間まちづくり事業における地域貢献項目」を挙げており、今後、自分たちの地区ではどの項目を取り入れていくのかを検討していただくことになると考えている。

・GCSは3年間議論を続けており、まだまとまっていないが、早く全体のイメージや図面が出てくるようにしてほしい。そこで出てきたイメージをもとに各地区が検討に入るのが良いと考えている。とにかく早く進めたいという思いである。

・本日のまちづくりガイドライン（案）たたき台については、様々な意見がいただけたと思う。大宮のまちが、まちを訪れる人や住む人でにぎわうようにするにはどのようにすべきかを考えたい。現在のところ、そのために駅前がどうあるべきなのかということころまでは、まだ表現できていない、と皆様は感じているのだと思う。このまちづくりガイドラインが、大宮のまちがどのようにあつて欲しいのかという願いが込められたものになり、また皆様と議論ができれば良いと思う。

以上